

中堅企業から東証1部上場への道

日本トラックドライバ
育成機構(JTDO) 理事 沼田 雅和氏

日本物流研究会(NBK)事務局「新日本流通新聞社」第261回セミナーがこのほど、都内のホテルグランドヒル市ヶ谷西館で開催された。テーマは「中堅企業から東証1部上場企業への道」。講師は、日本トラックドライバ育成機構(JTDO)理事で元トラックコム取締役常務執行役員・元トラックコムDS社長の沼田雅和氏。トラックコムを上場企業へ成長させた役員としてかかわった学びや気付きなどを「仲間の皆さんのお役に立てれば」と講義した。

成長の秘密はなににか？

沼田氏は、トラックコムが2012年に東証1部に上場するまでの全社一丸の取り組みについて事例を交えて述べた。

同社は1995年に店頭市場(JASDAQ)に株式公開。株式公開を断念した当時、「利益の出ない会社から利益の出る会社」にするため、「利益は、正義」と腹をくくる一方針を徹底し、「営業所別年間予算と月次損益の徹底」「事故費削減」な

どに全社で尽力したという。

その成果が実り、社風として「会社は、決めたことはやり続ける」が確立され、ドライバーや社員などの意識が変わったとしている。

また、店頭登録に向けては「共同配送のトラックコム」、2002年の東証2部上場へは「物流の一括請負のトラックコム」、2012年の東証1部上場へは「One Stop 3PLの実現に向

け、3本のコア事業を連携して強化」を事業モデルとして変化を続けてきたという。

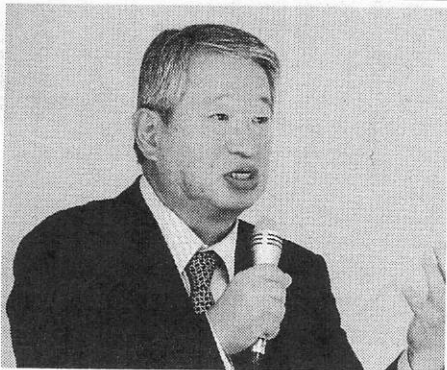
さらに、成長の秘密として「第1エンジンの物流情報サービス」「第2エンジンのロジスティックマネージメント事業」「第3エンジンの生産請負業・人材派遣業」「圧倒的な物流改善提案力と営業力」「情報システムの活用」に取り組んだことを指摘し、「世の中の変化に対応できたことで、今日がある」とした。

また、東証1部上場以外にも、2009年の要冷物流センターの火災、生協個人宅配専門会社設立などからの学びなども述べ、「お客

様との在り方では、トラックコム創業者の武部純三翁の言葉「情けは人の為ならず」のおおりに話した。

セミナー後、参加者からの感想では「大変勉強になった」「仕組みづくりの大切さがわかった」「我が社も上場への意欲が湧いてきた」などと好評だった。

懇親パーティーも開かれ、ダックス(本社)東京カスター事業部コーンルセンター長の大家貴志氏、ヨシオ(本社)東京物流用品部係長の大宮成浩氏がそれぞれ最新商品をプレゼンテーションした。



日本物流研究会

第261回セミナー